

第2回ひょうごユースフォーラム

実施報告書



実施日：2013年6月29日（土）、30日（日）

場所：洞川教育キャンプ場

2014年1月23日
第2回ひょうごユースフォーラム 実行委員会

目次

1. はじめに	・・・ 3 頁
2. 目的・目標	・・・ 5 頁
3. 実施内容・結果	・・・ 6 頁
4. 評価・反省	・・・ 7 頁
5. むすびに	・・・ 9 頁
6. 資料	
資料1 参加者氏名（支援者、見学者含む）	・・・ 10 頁
資料2 予算・収支報告	・・・ 11 頁
資料3 備品一覧	・・・ 12 頁
資料4 実施記録（詳細）	・・・ 13 頁
資料5 スタッフ、支援者コメント	・・・ 30 頁
資料6 採択文、提言文策定後の動き	・・・ 33 頁
資料7 当日までの準備の記録	・・・ 34 頁

1. はじめに

全国ユースフォーラムの位置づけについて

2年に一度、日本連盟主催で『全国ユースフォーラム』が行われる。これの目的は大きく分けて2つ存在する。

一つは意思決定への青年の参画の場を設ける事である。提言文をフォーラムの最後に作成・採択し、日本連盟の事業推進に対する提案を行ったり、APR（アジア・太平洋地域）ユースフォーラムの日本代表団の選出を行いアジア太平洋地域での意思決定に間接的に参画したりする事が挙げられる。もう一つは、自分たちのこれまでの活動をレビューし、自分や周りの経験を共有し、自分達の活動に活かす事である。

ここでキーワードとなる、WOSM（世界スカウト機構）の重要戦略にも含まれる『青年参画』とは、日本連盟などの委員会に参画することだけではない。例えばカブ隊やボーイ隊に奉仕するのも、プログラムに対する青年参画の一つである。

さらに具体例を挙げれば、行事に対する青年参画—日本ジャンボリーやベンチャー、アグーナリー等の国際野営大会への運営奉仕、日米・日韓フォーラム等の国際フォーラムへの運営奉仕、世界ジャンボリーやアジア太平洋地域ジャンボリーへの国際サービススタッフチームや派遣団本部員としての運営奉仕や、意思決定への青年参画—組織の意思決定機関（団会議、県連盟の各種委員会、日本連盟での常設委員会や教育本部など→単に構成員になるのではなく、発言し意思決定に積極的に参画していく事が求められる）への参加や、ユースフォーラム等による積極的な討論の結果、提言文などを提出、実行に向けて行動する事などがある。

特にこの全国ユースフォーラムはまさしく、後半部分の『積極的な討論の結果、提言文などを提出、実行に向けて行動する事』を指している。

また全国フォーラムではAPRフォーラムへの参加者（日本代表）が選ばれることもある。また世界ユースフォーラムの報告も行われる。こうした点から、全国フォーラムは国際的な、あるいは世界規模のフォーラムとの関連性を有していると言える。

ひょうごユースフォーラムを実施する意義（第1回ひょうごユースフォーラムからの流れ）

先述のように、2年に一度日本連盟主催の『全国ユースフォーラム』が行われるが、これは各県連代表のユース年代加盟員（18～25歳のVS・RS・指導者）が集まって、スカウティングにおける問題点等について、ユース年代としてできる事は何か、議論する機会のある場である。

ところがかつては、全国ユースフォーラムへの参加に特に条件は無く、本当に県連のユース年代の中で意見を集約できているのかが疑問であった（代表者のみの意見が、県連の意見として提示される場合がある）。また兵庫連盟における代表の選出方法も、ほぼ一本釣りと言った状況であった。

またユース年代スカウトは、全国ユースフォーラムを含めたユース年代のフォーラムに参加できる機会が非常に限られており、県下のユース年代がフォーラムに参加し、WOSMの重要戦略のひとつである『青年参画』をする機会を与える事が必要になると考えられる。

そこで今から2年前の2011年、平成23年度全国ユースフォーラム開催を前に、『全国ユースフォーラムの前段階として、兵庫版ユースフォーラムを開催する』という事を念頭において、第1回ひょうごユースフォーラムを開催した。

参加者数はたいへん少なかったが、一本釣りではなく本フォーラムに参加したスカウトの中から民主的な手段(推薦・立候補→投票)で代表スカウトを選出すること、全国ユースフォーラムに提出する意見として、兵庫としての意見を集約しまとめることを達成した。しかしアクションプランは定め、県連や日連・県ユース委員会への提言文を作成したものの、その実施についてはいまひとつ振るわなかった。

そこで前回の反省を踏まえ、今回の開催にあたって注意したのが、提言文をもととした話し合いを直後のユース委員会において行い、今後の県ユース委員会でも継続して行うこととした。また時期については、平成 25 年度全国ユースフォーラムが 9 月の 3 連休に開催されることを見越し 6 月末とした。

また初の試みとして、(1)RS 対象の日本連盟主催の海外派遣報告会を開くことで、県下の VS～ユース年代、およびその指導者に興味を持ってもらうこと、(2)宿泊を通じたフォーラムを行う事で十分に議論の時間をとること、(3)ボーイスカウトの基本である『野外活動』を念頭に置き、野外(野営形式)でのフォーラムとすることとした。

特にこだわった点としては、実行委員もすべてユース年代(18～30 歳)とし、それ以上の年代の方は裏方・後方支援に徹し、議論に口を挟まない点であり、『ユースのユースによるフォーラム』を実現しようとした点である。

このひょうごユースフォーラムが、各地区のユース年代スカウトが本フォーラムのアクションプランに基づいた各種のアクションを起こし、あるいは間接的・直接的に県のユース活動全体を活性化させるきっかけになれば良いと考える。

2. ひょうごユースフォーラムの目的及び目標

目 的

1. 兵庫連盟としての採択文・アクションプラン・提言文の作成および提出
2. 第2回RCJ総会参加者の報告
3. 兵庫県下のRSが集まる機会の創出
4. 海外派遣の報告の場を活用した、日連主催各種海外派遣事業への啓蒙
5. 全国ユースフォーラム参加者の選出

目 標

1. 以下のテーマでフォーラムを行い、兵庫連盟のユース年代スカウトの採択事項（アクションプラン・提言文）をまとめる。なお、それぞれにサブテーマを設ける。
 - ① どうする！？どうなる！？兵庫のユース
【ユース年代の普段やっている活動の共有と、それをやる上での問題点、さらにそれを解決する方法】
サブテーマ候補：ひょうごユースキャンプ／ユースの指導者として求められること／里親制度／地元を離れたRS／社会人と学生
 - ② ユースにとってできること、すべての加盟員に
【ユース年代が他部門の加盟員、ひいてはスカウト運動全体に対してできること】
サブテーマ候補：加盟員減少／制服の変更など／海外派遣／社会にとってのBSとは？
2. 日連主催海外派遣に参加された方を基調講演者として招致し、海外派遣報告会を行う。
3. 全国ユースフォーラムへの参加者を選出する。
4. 県下全体でのユース年代活動の活性化を図る。

3. 実施内容及び結果

①参加者（支援者、見学者含む）

運営スタッフ 4名
参加者 3名
基調講演者 1名
支援者 5名
見学者 9名

②採択文及び提言文について（分科会から策定までの活動の詳細は、23頁から28頁に記載） 2日間議論を行い、採択文・提言文を下記のとおり策定した。

私たちが考えるローバリングとは？
放浪を通じて、自我の確立を目指す。

RS以上の加盟員にローバリング・トゥ・サクセスを読んでもらい、理解を深めてもらう。
各地区にローバー（ユース）の担当コミッショナーを決めてもらい、
地区ユース委員会と協力し、サポートしてもらう。
同時に、県ユース委員会にスカウト運動改善を見据えた
ローバリングの中長期的な指針の検討を依頼する。
日本連盟に対しては、プログラムは中長期的な視点で策定して頂きたい。
日本連盟は加盟員の増減にかかわる事案は、慎重に検討して頂きたい。

③海外派遣に関して（詳細は18頁、19頁に記載）

各種海外派遣と助成制度について

荒西 完治氏（兵庫連盟国際委員長）

基調講演 YAMAKASI～身体と精神の鍛練を通じて探す富士スカウトのあるべき姿～』

越智 萌子氏（埼玉県連盟さいたま第1団RS・平成23年度富士スカウト特別海外派遣参加者）

④全国ローバースカウト会議の報告（詳細は20頁に記載）

吉田 拓馬氏（平成25年度RCJ兵庫連盟代表加盟員・神戸第16団RS）

⑤全国ユースフォーラム参加者選出

白川 龍彦氏が参加することとなった。

4. 評価・反省

①兵庫連盟としての採択文・アクションプラン・提言文の作成および提出

一応は達成。ただし、今回の採択文については、その書式についても含め原則として全て参加者に一任したため、採択文が依頼する格好に見える・抽象的に見える、などの稚拙な面も多々あるが、それらはすべて、実行委員長のアドバイス不足である。

②海外派遣の報告の場を活用した、日連主催各種海外派遣事業への啓蒙

当初予定していた3名の候補者(①松浦慎之介氏/西宮10団RS・2010年度バングラ、②藤井信宏氏/伊丹12団AVL・2011年度ウガンダ、③國府田華子氏/尼崎3団RS・2012年度CJK)はスケジュールの都合で招致できなかったが、埼玉より越智萌子氏を招致できた。特に、兵庫では30年間実績のない富士特別海外派遣の内容をお話しいただいた事、荒西国際委員長に越智さんの送迎や各種制度の紹介をしていただいた事は、大変よい機会であった。ただし、モチベーションの高い観客が集まったとはいえ、数が少なかったのが悔やまれるところである。

③第2回RCJ総会参加者の報告

海外派遣報告会の中で、吉田拓馬RS本人より報告を行った。

④全国ユースフォーラム参加者の選出

ひょうごユースフォーラム参加者の中に、日程を開けられる者がおらず、達成できていない。

⑤兵庫県下のRSが集まる機会の創出

実際には参加人数はかなり少なく、1班編成で議論をせねばならないほどであった。参加人数が少なくなった要因を追求する必要がある。

【その他の感想・意見など】

- ・今回のフォーラムをキャンプ形式で行なったことは、とてもよかったと思う。スカウト活動の基本である、野外で実施することによって、開放的となり、自身の気持ちもリフレッシュされ、フォーラムに好影響が出た。自分たちで、作り上げることの素晴らしさや、仲間と野外で活動できる幸せを感じた。
- ・森地県コミッショナーより『ユース年代に求められること』というテーマで講演をいただいたのは大変よかった。フォーラム開始前に参加者の中で『ボーイスカウトとは』『ユース(年代)とは』を認識させておくのはとても重要なことだからだ。
- ・参加者が大変少なかったが、テーマに合った「ユースとは何か」を通じ、若手リーダーが置かれている現状が少しでも把握できたことがよかった。
- ・県や日連主催のフォーラムも、スカウト教育法に則り、野営形式による野外でのフォーラム開催としては、結果、今回のように、屋内でするような閉鎖的ではなく、他の方に様子を自由に見てもらえる。
- ・①“ローバー”と“ユース”の言葉の使われ方が未統一。②今回のフォーラム採択文内容より、歳の近い先輩からのアドバイス・サポート・フォローも必要故、同じ机で議論するユースフォーラムも29歳までを対象にすべき。①②より、日本連盟もユースの括りを兵庫連盟同様、29歳までにすべき。

- ・偶然他のプログラムと会場が重なった為、他の方々にフォーラムの様子や実施状況を見て頂けた。
- ・意図的だったのか、ただ単なる報告会で終わるのかと思われた越智さんの発表が、フォーラムの話し合いの中で参考となった。
- ・アドバイスのおかげで、参加者みんなで作ってみんなでつける形式の食事は、実行委員だけが調理をしなくて済むという負担減と、参加者同士の交流を深める、良い手段と考えられる。
- ・理解ある 30 歳以上のアドバイザーの適度な協力もユースにとって大切である。
- ・再考すべき事項…今回以上の参加人数でも対応できるプログラム、会場(駐車場スペースも)、費用であったのか。今回同様時間に余裕を持てたか。雨天時でも対応できる会場だったか。
- ・実行委員も同世代で、フォーラムに参加して、日頃顔を会わすことのない仲間と忌憚のない議論を交わすことが新鮮であった。あまり慣れてないメンバーから違う視点からの意見もあり、とても熱い議論が交わされた。人数が増えればもっと熱く、いろんな考えをもったメンバーで議論を交わすだろう。
- ・こういう活動を後輩達に見せて、ローバーやユース世代になっても、まだまだ遊んだり、自分の道を見つけたり、できることはいっぱいあるぞ、と見せつけてやりたい。
- ・海外派遣報告会では、報告の中で、第一に自己鍛錬、そして他へのつとめという話をされていた。これは自己鍛錬と奉仕を繰り返し行なってきた人でないと、なかなかそのような考えにたどり着かず、20歳にしてその考えを持つに至るのはすごいことだ。(身近に良い指導者がいたのかもしれないが)
- ・ユースフォーラム採択文の中にローバー担当コミッショナーをと書かれていましたが、自己鍛錬と奉仕を本当に理解しているローバー担当コミッショナーは本当に必要かもしれない。
- ・海外派遣について、本来聴いてほしいVS・RSの参加がたいへん少ないのはとても残念。
- ・もっと多くのユースが参加し、交流の輪が広がればと思う。その糸口をつかむためにも、時間を空けてぜひ参加してほしい。

5. むすびに

『全国でユースフォーラムがあるのだから、県でユースフォーラムを行ってしかるべき』
いつかの県ユース委員会の場にて、この意見が出てから早2年半。それが昨年度の『第1回ひょうごユースフォーラム』を実施するきっかけであり、全ての始まりでした。思えば、当時は少ない参加者ながらも、参加者の中からしっかりと全国ユースフォーラムの県連盟代表参加者を選出でき、第2回ひょうごユースキャンプの場において代表参加者による報告をできました。

ところが今回のひょうごユースフォーラムにおいては、結果的に県連盟代表スカウトを選出できず、実行委員長である私が県連盟代表スカウトとして参加するという、あまり望ましくない事態になってしまったことは、大変心残りであります。その一方で、兵庫においては30年以上実績のない、富士スカウト特別海外派遣参加者の越智 萌子さんによる特別講演や、その後の県ユース委員会での採択文実践に向けた継続的な協議など、新たな試みができたと感じます。言い換えれば【単なる全国ユースフォーラムの前段階ではない、兵庫のユースフォーラム】であったのではないのでしょうか。

当然のことながら、運営体制や、参加スカウトたちが知恵を絞って創り出した採択文に関して、数多くの方々より厳しいご意見をいただいたこともございます。しかしそれは、すべて実行委員長である私の責任です。今回の失敗を繰り返さないためにも、何がいけなかったのかを精査し、次年度のひょうごユースフォーラムに活かせるよう、改善策を立ててゆき、確実に後輩の皆さんに語り継いでゆく所存であります。また、多くの県下のスカウトが県・全国とわず『ユース年代のフォーラム』に興味を持っていただけるようなスタイルにすることも、必要なのではないのでしょうか。

最後になりましたが、時には運営委員・時には参加者として活躍された県ユース委員会の皆さん、素晴らしい採択文を創ってくださった県下ユース年代の皆さん、嬉しい差し入れをくださった皆さん、机上では量れない数多くのパラメーターを有する変化に富んだ環境でのユースフォーラムを提供してくださった洞川教育キャンプ場の管理人さんをはじめとするこうべユースネットの皆さん、ユース年代の我々にたいへん大きな刺激を与えてくださった講師の皆さん、わずかな時間ながら見学に駆けつけてくださった皆さん、そして第2回ひょうごユースキャンプに関わった全ての方へ、この場を借りて御礼申し上げます。頼りない大会長でしたし、ご迷惑をおかけする事も多々ありましたが、私を支えて下さり、本当にありがとうございます。

県下ユース年代の皆さん、平成25年度全国ユースフォーラムのご報告を心待ちにしていってください。そして、第3回ひょうごユースフォーラムでぜひ、お会いしましょう！

第2回ひょうごユースフォーラム 実行委員長 白川龍彦

6. 資料

資料1 参加者氏名

スタッフ

白川 龍彦（神戸第43団 VS 副長） ※兵庫県ユース副委員長
北村 宗豊（西宮第25団 VS 隊長） ※兵庫県ユース委員(阪神さくら地区ユース委員長)
藤澤 拓也（神戸第54団 VS 副長） ※兵庫県ユース委員会アドバイザースタッフ
入江 精（姫路第7団 BVS 隊長） ※兵庫県ユース委員(姫路地区ユース委員長)

参加者

吉田 拓馬（神戸第16団 BVS 副長補） ※平成25年度 RCJ 代表加盟員
槇田 真吾（神戸第17団 RS）
梅田 華奈（柏原第1団 BS 副長） ※兵庫県ユース副委員長

基調講演者（日本連盟主催海外派遣について）

越智 萌子（さいたま第1団 RS） ※平成23年度富士スカウト特別海外派遣参加者

支援者

荒西 完治（伊丹第5団 団委員長） ※兵庫連盟国際委員長
森地 一夫（西宮第3団 団委員長） ※兵庫連盟コミッショナー
安藤 雅夫（神戸第16団 団委員） ※神戸地区指導者委員長
池上 忠（神戸第17団 団委員） ※神戸地区団担当コミッショナー
原田 知典（宍粟第1団 BS 隊長） ※兵庫連盟副コミッショナー

見学者

長谷川 恵一（茨木第1団 団委員）
庭井 七郎（神戸第1団 RS 隊長） ※洞川教育キャンプ場管理人
長谷川 大起（神戸第38団 RS） ※兵庫県ユース副委員長
清水 悠佑（元・神戸第53団 RS）
鯛谷 昭史（神戸第65団 VS 隊長） ※元・兵庫県ユース委員長
渡邊 尚志（神戸第37団 VS）
森 悟史（神戸第43団 VS）
箭野 柊（神戸第43団 VS）
山口 智暉（神戸第43団 VS）

資料2 予算及び収支報告

予算

収入の部

	費目	金額	備考
収入	県ユース委員会予算(計上済)	80,000	活動振興関連活動費は186,000円。
	参加者収入	60,000	2,000円×30名を想定。
	合計	140,000	

支出の部

	費目	金額	備考
支出	会場費・テントなど現地資材費	10,000	概算
	資料・資材費	3,000	模造紙・マジック他・コピー代
	食費(30人分)	51,000	夕食500、懇親会400、朝食300、昼食500
	雑費	3,000	
	スタッフ交通費	6,000	
	全国ユースフォーラム参加費	30,000	3人×10,000円(募集要項より)
	全国ユースフォーラム交通費	36,000	3人×12,000円
	合計	140,000	

収支報告

県ユース委員会予算より

分類	項目	費用	備考
支出	運営協力金(21人) ※庭井氏の分は計上していない。	3,820	日帰り 120×10人(高校生)+180×6人(成人) 宿泊 220×1人(神戸市内)+330×4人(市外)
	シェルター	400	400円×1棟
	薪	500	500円×1束
	プログラム費用および備品	420	模造紙他
	スタッフ交通費	9,700	
	ひょうごユースフォーラム小計	14,840	
	全国ユースフォーラム参加費	10,000	1名分
	全国ユースフォーラム交通費	18,000	豊岡～富士宮間往復1200kmの燃費
	合計	42,840	
収入	県ユース委員会費用	42,840	事業活動費より

国際委員会予算より

分類	項目	費用	備考
支出	交通費、食費	40,000	基調講演者の交通費、食費
収入	国際委員会費用より	40,000	WTW 費用より

参加費より

分類	項目	費用	備考
支出	食費計	16,835	3食＋コーヒー代
収入	参加費徴収額合計	8,500	参加するプログラムの数により増減
	スタッフ参加費	8,335	
	合計	16,835	

資料3 準備物

資料持参・借用・購入した備品について

項目	数量
以下は事務局より借用	
プロジェクター	1台
ポスターカラー	約40本
スクリーン	1台
以下は個人が持参	
ノートパソコン(白川)	1台
カセットコンロ(入江)	1台
ガスランタン(原田)	3台
プリンタ・用紙・インク(白川)	1式
キャンピングストーブ(入江)	1式
ワイヤレスマウス(森地)	1台
以下は購入	
模造紙	10枚
蚊取り線香	1式
ウェットティッシュ・アルミホイル・食材	

資料4 実施記録（詳細）

日程

6月29日（土）

時刻	内容	備考
9:00	事務局にて備品を借りる	白川がプロジェクタ・スクリーンを借りる
10:00	スタッフ集合・設営・昼食	白川・北村・藤澤・入江が到着。書類整理および印刷・プログラムの確認・設営を実施。北村・藤澤・入江は食材買い出しの後、吉田とともに昼食へ。白川と池上は留守番 ※参加者が少ないため、この場において白川を除く運営委員も議論に入ってもらうことが決定した。
13:00	夕食準備開始	設営と同時進行で、食材の下ごしらえを実施
14:30	受付開始(担当：池上)	実際にこの時間帯に到着した方はいないが、一応受付を開設
15:00	開会式 司会：吉田 (撮影：池上) ※以降、分科会1まで休憩 および基調講演の準備	開式の言葉 国旗掲揚（藤澤・入江） 県連盟コミッショナー挨拶 運営委員長挨拶 閉式の言葉
15:40	講師到着	越智到着（送迎：荒西）
15:50	オリエンテーション	スカウトフォーラムの意義・今回のフォーラムの解説(担当：白川)
16:00	基調講演(森地県コミ)	『ユース年代に求められるもの』ワークシートを使用して実施。
16:20	分科会1	活動するうえでの問題点を列挙。この間、講師陣は発表準備
17:10	海外派遣報告会受付開始	スカウト到着に伴い受付を開始(担当：池上)
17:50	海外派遣報告会	§1 『各種海外派遣と助成制度について』 §2 『YAMAKASI～身体と精神の鍛練を通じて探す富士スカウトのあるべき姿～』 §3 『全国ローバースカウト会議に参加して』
18:55	報告会終了	夕食準備再開
19:00	国旗後納	藤澤・入江
19:45	夕食＋懇親会	焼きそば・野菜炒め。見学者はめいめい到着
22:00 ～	消灯・随時就寝	シェルターで就寝3名、マーキー下でビバーク2名

6月30日(日)

時刻	内容	備考
5:00	随時起床	焚火の処理・朝食準備など
6:30	朝食・後片付け	オープンサンド。この後、榎田到着
7:50	朝礼 司会：北村	開式の言葉 国旗掲揚（藤澤・入江） 県連盟副コミッショナー挨拶（原田） ソング『愉快的スカウト』（ソングマスタ：北村） 閉式の言葉
8:00	朝の集い(進行：北村)	ラジオ体操および諸注意（白川）
8:30	分科会 2	梅田到着。昨日の振り返りを行った後に討議を開始。10:20～10:35に休憩を挟み、解決に向けて討議を開始。
11:20	昼食受け取り(白川)	餃子の王将鈴蘭台店
11:45	昼食・休憩	いのしし食堂にて。藤澤は梅田を送迎。
13:10	分科会 3	アクションプラン・提言文作成・全国フォーラム参加者選出の討議(全員で討議)
14:30	発表	模造紙を用いて発表
14:40	提言文打ち込み	直接PCで入力の後、直ちに参加者に配布
14:50	会場片付け	片付け、記念撮影(撮影：安藤)。閉会式は神戸地区スキルトレーニングの閉会式終了を待って行うこととした
15:20	閉会式 司会：北村	開式の言葉 大会長挨拶 スカウトサイン（榎田） 国旗降納（藤澤・入江） 閉式の言葉
16:00	片付け完了・解散	終了後、プロジェクターとスクリーンを事務局に返却

○開会式

～森地県連盟コミッショナーのご挨拶より～

(この裏で県連トレーニングチーム研究集会が行われていることと関連し)トレーナーは **Train+er** で、ある方向に向かってけん引する者、とも解釈できる。

一方でローバースカウトは『電源』であり、ある方向に向かっていくわけではないが、他者の活動のためのエネルギーを送る存在である。



○オリエンテーション

白川実行委員長より、フォーラムとは何か、分科会や全体会の進行方法、平成 25 年度全国ユースフォーラムの概要などについて説明した。

○基調講演

森地県連盟コミッショナー

私(名前:)は、

(社会の一員として、社会に役立つ人材として、資質・技能・能力として)

①

という人です。

そうなった理由は、

②

からです。

そうなった理由は、

③

からです。

そうなった理由は、

④

からです。

そうなった理由は、

⑤

からです。

だから(自信を持って)これからも／なので(さらに磨きをかける意味で)これからは、

⑥

したいです。

平成25年6月29日 第2回ひょうごユースフォーラム

*ワークシートより引用

ワークシートの進め方

- ① まずは普通に1項目を書く。
- ② とりあえず『ボーイスカウトをやっていたから』と書く。
- ③ ボーイスカウトの経験を通じて、①のようになった理由を考えて書く。
- ④ 再び『ボーイスカウトをやっていたから』と書く。
- ⑤ ボーイスカウトの経験を通じて、③のようになった理由を考えて書く。
- ⑥ 今後、どういう風にしていきたいかを書く。

【基調講演のねらい】

★ボーイスカウトという教育の最終段階たるローバー年代が『自分探しの旅』をする年代であることを知ること。

★今の自分を形成するにあたり、ボーイスカウトがどのようにかかわってきていたかを再認識する。

ローバー(Rover)とは、さまよい・放浪という意味である。いろいろやってみて、人生の指針を決める段階なのである。

エリクソンの発達段階において、18～25歳は『自我同一性』…自己を確立する段階である。もちろんいきなり『自我同一性』に達するわけではなく、信頼→自律性→積極性→勤勉性→同一性→親密感→生殖性→自我統合感というように段階を踏んで成長するのであり、一貫教育であるスカウト教育法にも同様のことが言える。学ぶべきことを学ばずして次の段階に進むことはできない。

今日やった内容は必ずしも今、できなくてはならないものではない。ローバー年代のうちにできる(アイデンティティの確立をする)ようになればよい。

ボーイスカウトの経験を積むことによって得られるのは、野外で活動するうえで絡んでくる不確定要素に対応する力である。今回のひょうごユースフォーラムを過去の屋内でのスカウトフォーラムと比較すればよく分かるが、雨、虫、騒音、気温の変化など、大変多くのパラメータが絡む。その不確定要素にいかにか工夫をして対応するか。



○海外派遣報告会

§ 1 『各種海外派遣と助成制度について』

講師 荒西 完治氏（兵庫連盟国際委員長・伊丹第5団団委員長）

現在、ローバースカウトを対象とした日本連盟主催の各種海外派遣が存在しているが、中には高額な参加費が必要となる者もある。そこで、兵庫連盟として国際人材育成事業補助金制度を設け、これらの国際委員会が認めた行事に参加するスカウトに対して補助金を与えることとしている。

参照URL <http://www.bs-hyogo.gr.jp/kokusai/jinzaihyogo.pdf>

過去の実績…平成22年度バングラデシュ派遣（1名）、平成23年度ウガンダUN-HABITATプロジェクト（1名）、平成24年度CJKプロジェクト（1名）

なお、日本連盟の富士スカウト特別海外派遣とは別に、兵庫連盟でも富士スカウト海外派遣助成金制度というものを設けている。

参照URL <http://www.bs-hyogo.gr.jp/kokusai/fujihyogo.pdf>

富士スカウトになってそのままか？と言われないうちにも、ぜひ海外派遣に参加してほしい。

§ 2 『YAMAKASI～身体と精神の鍛錬を通じて探す富士スカウトのあるべき姿～』

講師 越智 萌子氏（埼玉県連盟さいたま第1団RS・平成23年度富士スカウト特別海外派遣参加者）

親の思いもあり、とにかく『トップにならなくちゃ』という想いで突っ走って富士章を取得した。しかしなぜとったのか自分の中でも理解できない。その疑問を解決するために、自分は富士特別海外派遣に行った。たいていの人は、『国』→『内容』の順にプロジェクトを決める。しかし私は『内容』→『国』の順で決めた。

『パルクール』…BSとの共通点がいくつか存在。フランスの軍人がアフリカ遠征の際に見た現地人の動きを取り入れた訓練から派生したスポーツ。心と体を鍛える。これを軍人の父が息子に教え、それを息子が遊びに使い友人達とスポーツに変えていった。武士道に近い形であるが、最近ではこれをパフォーマンスとして行うことも多い。BSとの関係の研究・精神的肉体的成長・BSは何を目指すのか、考えようというもの。フランスとイギリスに行った。計1か月。

仏…肉体的成長を目的とした教室に。体はボロボロ！

英…現地でBSとの交流が実現し、集会や現地のハイスクールに行ったりもした。

パルクールの認識について、日本…運動・パフォーマンス。海外…自分を守るため。自分の身を守れない者が、他人の身を守ることはできない。『人を守るための訓練』。特に、派遣前に3.11東日本大震災があり、この項についてはかなり考えた。もし火事になっても消防隊が助けてくれなかったら？→自分で逃げるしかない。でも、自分で自分を守るための力が必要。それに、もし他人を守れるところまで行けたら、逃げる時に子供1人抱きかかえて逃げることでできる！

『なぜBSをやっているの？』と聞かれたら、私は『こういうものを仲間とともに追求していけるから』と答える。

結論→スカウトは、ちかいを胸に刻み、おきてを行動に移し、常に目的意識を持っていることが大事。言葉の壁・家族や友達のありがたさを知る。今後、スカウト向けパルクール活動をしたい。女性パルクールチームの活動。アメリカのパルクールの体験。自隊のビーバーの活動では、忍者ごっことしてやっている！



*YAMAKASI

実在するパルクールチームの名前。

コンゴの言語であるリンガラ語で“強靱な精神”、“強靱な肉体”、“強靱な人物”、“忍耐力”などを意味する語に由来する。

彼らをモデルにして、「TAXI」で知られるリュック・ベッソンが監督した2000年公開の映画「YAMAKASI」で一躍有名となり、パルクールの名前も世界に広まった。



質疑応答など…

なぜ富士スカウトになったのか？

→家訓で、何でも一番にならねばならないという雰囲気があった。自分もトップである富士を目指してひたすら頑張ってきた。でも、富士だけ・海外派遣だけがすべてじゃないはず。

独りで海外に行くこと、怖くなかったのか？

→実際はとても怖かった。海外に住んでいた経験があっても、やはり怖いって思う。

すり・ホームレス・変な男・ユースホステルでのトラブル・ネット回数の不通・etc…

偶然知り合えた日本人の方と話す・悩みを打ち明けることで、不安が払しょくできた。

おかげで海外に免疫が付いた。

海外に行くと、一度自分をリセットできる。垢抜ける。スカウトとしても、人としても、強くなれる。

ホームステイとかの段取りは、全部自分でやったのか？

→日本連盟が手配してくれた。でも、フランスではユースホステルに泊まらねばならないこともあった。

日本連盟とフランス連盟とのやりとりがうまくできてなかった。

最後に…

自分は埼玉で二人目の特別海外派遣(一人目は姉)。埼玉県連盟(の事務局の方)が富士特別派遣の存在を知らなかった。東京連盟や日連に裏を取って、ようやく申し込めた。兵庫ほど、この手の海外派遣に理解があって、制度が充実している県連は無い！

だから、兵庫における富士特別海外派遣の実績がここ30年無いのはあまりにももったいない。

§ 3 『全国ローバースカウト会議に参加して』

講師 吉田 拓馬氏（平成 25 年度 RC J 兵庫連盟代表加盟員・神戸第 16 団 RS）

他県連からの印象…ローバーによる委員会・会議の定期開催は大変難しく、兵庫県ユース委員会というかたちでそれが実現できている。兵庫は近畿圏ではとてもすごいという印象を持たれている。

地方の問題…東北や九州は 18 歳になったらほとんどのスカウトが地元を離れる。自分の件を地盤にした RS の集合体ができない。都会にはわからないだろうけど、田舎にとっては大問題である。移転先の団にはなかなか声がかげづらい。福島に至っては放射線の影響でスカウト活動自体ができない。もはや RS がどうこう、とかいう問題じゃない。

RS 会議の内容…RCJ は昨年発足。今年からもっと頑張ってゆこう！

これからは運営委員会だけじゃなくて、全国の RS・VS もいっしょに！

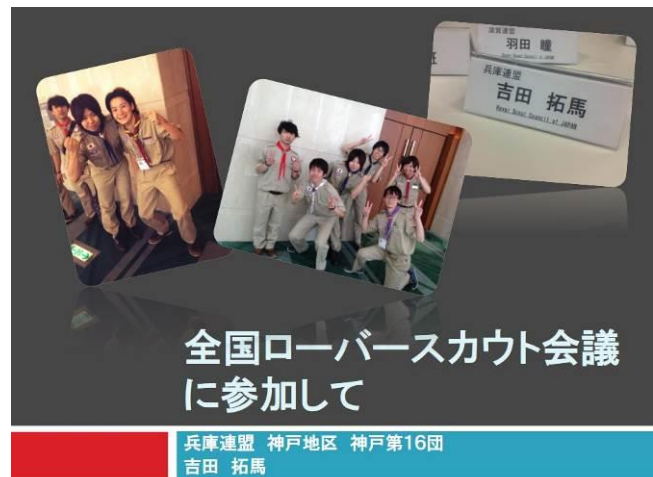
『全国の色んな仲間と会えるんだ』ということ。こういうメリットも SNS とか活用して、いろんな人に知らせてゆくべき。

総会では憲章を作り直した。RCJ 運営メンバーの選出。近畿からは議長・副議長（奈良県代表）が選出された。

RCJ と県ユースの関わり方？ ツールの一つ(ex. 一緒に活動する仲間探し)としてつかってほしい

日本全国のスカウトと仲良く。みんなに自慢できる活動を兵庫でやりたい！

こういう全国の会議や行事に参加できたのは初めてだし、いい経験にもなった。



質疑応答など

兵庫がとてもすごいという印象は持たれているのはわかったが、大阪は連盟のキャンポリーで 60 人規模のローバーナイトをやったと聞いているが？そちらの方がすごいと思う。

→大阪の代表から聞いた話では、まだ地区ユース委員会を立ち上げようという段階で、連盟を横断するレベルではまだ難しい。確かにローバーナイトもやったけど、その場限りで終わってしまった。

○夕食～懇親会 焼きそば・鉄板焼

昼間から仕込みをしておき、海外派遣報告会終了後に調理開始。多くの見学者も合流し、宴が始まる。



○宿泊形態について

今回の宿泊形態は、野営(この場合テントは持参かレンタル)もしくは舎営の選択制とした。結果、宿泊した5名のうち3名は第4シェルターにて舎営、残る2名は常設食堂フライの下にベッドを設置し露営を選択。



○朝食 オープンサンド・スープ



○昼食 餃子の王将鈴蘭台店にて調達。なお、食堂のかまどで炊事章講習会をしていたVSに配慮し、いのしし食堂に移動して食事をとった。



○分科会まとめ

分科会進行の手順 ※当初はフォーラムガイドに則って進める予定だったが、参加者が少なく1個班しか編成できなかったため、以下のように行った。

分科会 1 (29日 16:20~17:50)

分科会1は、『自分の身の回りのユース活動について』をざくばらんに話し合ってもらった。

- ・自分たちの活動や他から聞いた活動を紹介
- ・自分たちがやっていて、いいと感じる点・悪いと感じる点→改善策を抽出

この場でどのようなユース活動（ユースとして行っている活動）があるのか、また他の参加者がどのようなユース活動をしているかということを知り、2日目からの分科会2で議論する際の参考にした。



2. 1日目の振り返りについて (30日 8:30~8:40)

2日目の分科会2開始前に、1日目の出来事(基調講演・分科会1・海外派遣報告会・RCJ報告なども含め)を振り返った。



3. 分科会2・3について (30日 8:40~14:30)

分科会2・3では分科会1で話し合ったことの中から絞り込んで、問題点や改善策・解決策を話し合った。最終的にそれらをアクションプランとして発表。なお、アクションプランを推進するうえで手伝ってほしい事、依頼事項があれば、提言文として作成。

【分科会の基本的なルール】

フォーラムは、複数人数が意見を出し合い、より良い結論を導き出すことが目的である。よって相手の意見を尊重する事が何より大切。討論会のように相手を打ちのめしてまで自分の意見をひたすら突き通すものは『フォーラム』とは呼ばない。当然、節度ある発言を心がける事。

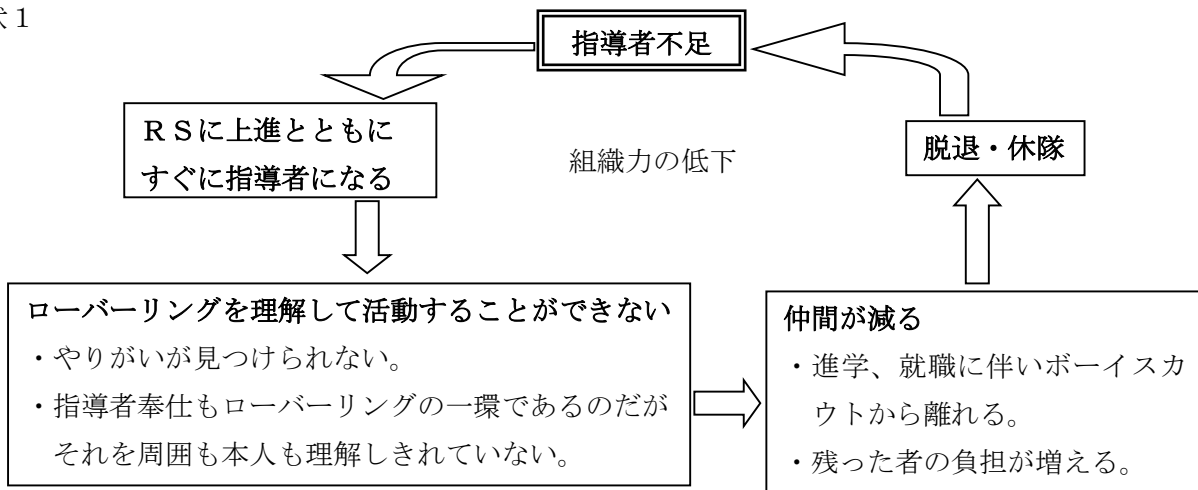
出た意見を批判する際は、頭ごなしに批判してはいけない。それではただのクレーマーである。必ず自分の意見やより良い意見（対案）を述べ、常に前向きな方向に持って行こうと言う意識を持つ事。

恥ずかしがって発言しないと、自分の意見を伝える事は出来ない。何よりそんな状態は『フォーラムに参加している』とは言わない。後になって後悔する事になっても遅い。

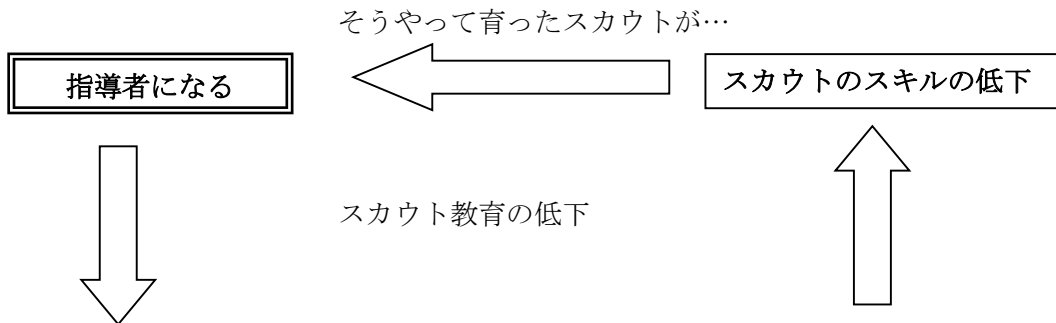
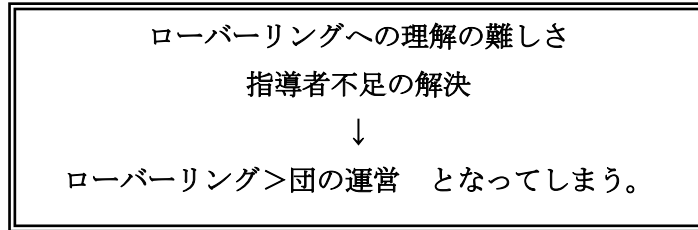
満身に議論がまとまらないまま、時間切れになる事もある。そうなりそうな時は、『限られた時間内で導き出される最善の策』を選ぶ事。

スカウト運動改善への道 ～負のスパイラルからの脱出～

現状1



現状 2



指導者のスキルが乏しい

- ・若手が指導者の主体にならざるを得ない。(指導者不足により)
- ・(進学、就職で) 若手は出入りが激しいため、指導者体制が確立できない。
育成の引き継ぎができない。



改善策

スカウトに対して

ローバー上進前に勉強会の実施

ユース年代が集まる機会を設ける

…ヨコとタテのつながりを創り仲間を増やす

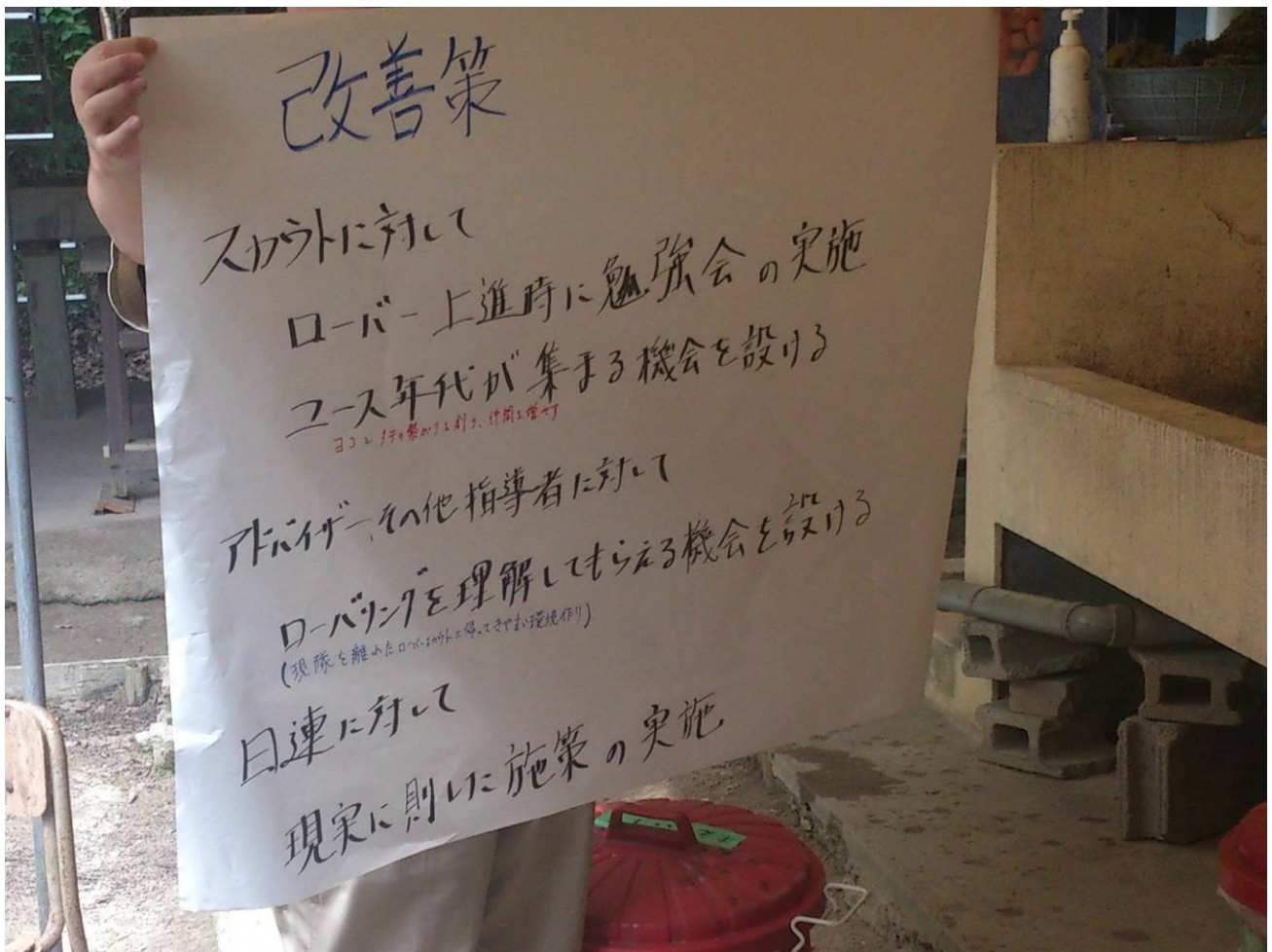
アドバイザー、その他指導者に対して

ローバリングを理解してもらえる機会を設ける

(現隊を離れたローバースカウトが返って来やすい環境作り)

日連に対して

現実に即した施策の実施



○採択文策定

分科会のまとめを基に、アドバイスを加えながら、具体的なアクションプラン、提言文を明文化し、参加者自らPCに打ち込む作業を行った。

※本来であれば具体的かどうか、提言文ありきになってないか(他への丸投げ中心になってないか)をもっと精査すべきであった。

第2回 ひょうごユースフォーラム

採択文・提言文

私たちが考えるローバリングとは？
放浪を通じて、自我の確立を目指す。

RS以上の加盟員にローバリング・トゥ・サクセスを読んでもらい、理解を深めてもらう。

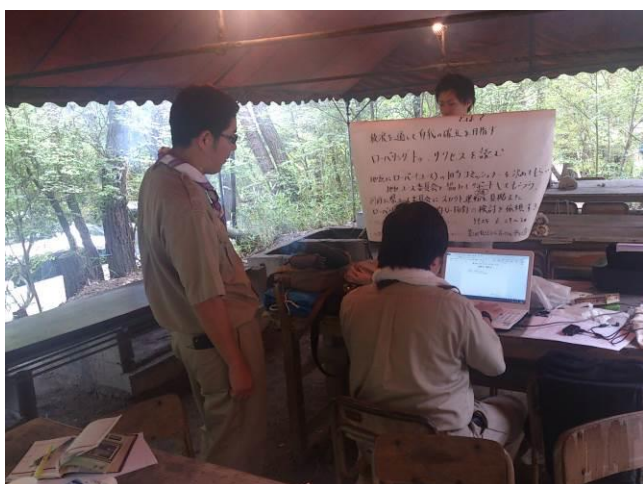
各地区にローバー（ユース）の担当コミッショナーを決めてもらい、地区ユース委員会と協力し、サポートしてもらう。

同時に、県ユース委員会にスカウト運動改善を見据えたローバリングの中長期的な指針の検討を依頼する。

日本連盟に対しては、プログラムは中長期的な視点で策定して頂きたい。
日本連盟は加盟員の増減にかかわる事案は、慎重に検討して頂きたい。

平成25年6月29・30日

第2回 ひょうごユースフォーラム 参加者一同



○全国ユースフォーラム参加者選出会

参加条件を満たしていてもスケジュールが未確定、もしくは埋まっている(土曜日に授業のある学生がいる・上進入隊式の時期と被るなど)、参加可能であっても対象年齢を過ぎている、などの理由でこの時点では参加希望者は出揃わなかった。そこで、日本連盟推薦締め切りの8月25日まで待つこととした。

その後の経緯は『策定後の流れ』の項に示す。

○閉会式

閉式の後、会場の清掃・後片付けを行い、管理人の庭井氏にご挨拶をして解散。事務局より借用した備品を兵庫県民会館に返却。



To be continued...

資料5 スタッフ、支援者のコメント

実行委員 藤澤 拓也（神戸第65団 VS 隊副長／県ユース委員会アドバイザースタッフ）

- ・参加者が大変少なかったが、テーマに合った「ユースとは何か」、や。実際、若手リーダーが置かれている現状が少しでも把握できたことがよかったです。
 - ・参加者の少なかった原因は何かを、解明し、次回フォーラムがよりよいものになるように、しなければならない。それは、実行委員としての反省点である。
- 自分から行動を起こすことを怠っていた。受身になって、あまり参加者の視点にたつことができていなかったように思える。
- ・また、実行委員も、同世代ということで、フォーラムに参加して、日頃顔を会わすことのない仲間と、忌憚のない議論が交わすことが新鮮であった。あまり、慣れてないメンバーもいて、そういうメンバーから違う視点からの意見もあり、とても熱い議論が交わされた。人数が、増えていけば、もっと熱く、いろんな考えをもったメンバーで議論を交わすことが想像される。
 - ・キャンプ形式で行なったことは、とてもよかったと思う。スカウト活動の基本である、野外で実施することによって、開放的となり、自身の気持ちもリフレッシュされ、フォーラムに好影響が出ました。自分たちで、作り上げることの素晴らしさや、仲間と野外で活動できる幸せを感じました。
 - ・こういう活動を後輩達に見せて、ローバーやユース世代になっても、まだまだ遊んだり、自分の道を見つけたり、できることはいっぱいあるぞ、と見せつけてやりたいです。

実行委員 北村 宗豊（西宮第25団 VS 隊長／県ユース委員）

【個人的感想】

- ・参加者としてフォーラムに関わったのは、ボーイスカウト人生で初でした。
日常から問題意識等の考えを持った方達と討議出来たからか、楽しく有意義な時間でした。
話の内容の大部分が、普段から私自身で考えていた事だったからかもしれませんが。

【実行委員として】

[全国(日連)に対して提言の意を込めて]

〈フォーラム開催〉

- ・スカウト教育法に則り、野営形式による野外でのフォーラム開催
結果、今回のように、屋内でするような閉鎖的ではなく、他の方に様子を自由に見てもらえる。

〈ユース年代の括り〉

- ・下記2点の観点から、兵庫連盟同様、29歳までにすべき
 1. “ローバー”と“ユース”の言葉の使われ方がごちゃごちゃ・あやふや
 2. 今回のフォーラム採択文内容より、歳の近い先輩からのアドバイス・サポート・フォローも必要故、ローバーとそれ以上29歳までを“ユース”という一緒の括りで、ユースフォーラムも29歳までを対象にすべき

[今回の実施内容]

〈良い点〉

- ・時間的に余裕があった・たまたまとはいえ、ボーイスカウトの他のプログラムと会場が重なった為、

他の方々にフォーラムの様子・実施していることを見て頂けた。

- ・コミッショナーのお話2回とも、フォーラムの話し合いの中で、良い参考・キーワードとなった。
- ・意図的だったのか、ただ単なる報告会で終わるのかと思われた越智さんの発表が、フォーラムの話し合いの中で参考となった。
- ・アドバイスのおかげで、参加者みんなで作ってみんなでつける形式の食事は実行委員会の調理という負担減と参加者同士の交流を深める良い手段と考えられる。

この事例から、理解ある30歳以上のアドバイザーの協力もユースにとって大切である。

<再考>

- ・今回以上の参加人数でも対応できるプログラム、会場(駐車場スペースも)、費用であったのか。さらに欲を言えば、今回以上の参加人数の場合も、今回同様の時間に余裕を持てたか
- ・雨天時でも対応できる会場だったか。

支援者 池上 忠 (神戸第17団 団委員/神戸地区ユース担当コミッショナー)

「スカウトのあるべき姿」～第2回兵庫ユースフォーラムを振り返って～

冒頭の言葉について、あるRSが教えてくれました。スカウトのあるべき姿とは、ちかいを胸に刻み、おきてを行動に表し、目的意識を常に持っている、そういう姿であると。

このRSは、さいたま1団の越智萌子さん。第2回兵庫ユースフォーラムの基調講演のため、わざわざ洞川までやってきた時の言葉です。彼女は、富士章特別海外派遣で欧州を巡ってプロジェクトを進め、その報告をしに来てくれたのでした。

今を去ること3年前、朝霧寮の第29回兵庫連盟ベンチャーフォーラムの基調講演にて、やはり富士章特別海外派遣でスペイン巡礼の旅の報告を聞かせてもらったことがありました。その時のRSは越智瑠莉子さんで、3人姉妹の長女に当たります。スカウティングとは不可分の宗教について、体験的に探求されたもので、VS・RS他、およそ50人以上の方が聴講されたように記憶しております。

今回の越智萌子RSは、先の越智瑠莉子RSをはじめとする3人姉妹の真ん中の妹さんに当たるそうです。ご姉妹ではあるのですが、プロジェクトへのアプローチは全く違い、ぱっと見ると今風？のダンスなのかな？とも思えるパルクールという運動法について掘り下げるものでした。お話を聞いて行くと、ただのダンスではなく、スカウティングと同様の成り立ちや目的意識がある物なのだそうでした。

それにしてもこの越智さん三姉妹、まだ三女さんがおられ、しかも富士章特別海外派遣にも挑戦中とのことですので、もしその榮譽をお受けになるようであれば、またご報告をお聞かせ願いたいと存じます。少々、気が早いようではありますが。

残念なことに、今回の聴講には、約10名前後しかご来場いただけませんでした。3年前の派遣報告の状況と比べても激減となり、越智萌子RSには大変失礼な結果となってしまいました。聴講を除くユースフォーラム自体についてはもっと少なく、ほぼユース委員のみに近い状況で、「もう少し多いのかな、と思ってました」と言われてしまいました。

ユース委員の大半は、3年前の派遣報告も聴講しており、大いに影響を受けてくれて今の彼らがあるのでは、と思います。実際、1泊2日のユースフォーラム自体は和気あいあいと盛り上がってくれ、過去の活動で知った仲ばかりとはいえ、討議は真剣に、楽しむところは楽しんでくれていました。もっと多くのユースが参加し、こういう輪が広がれば、と思います。

昨年度の VS 活動報告会におけるウガンダ派遣報告や、更に前のパワーアップ研修「国際理解」でのバングラ派遣報告など、様々の機会を得て聴講させていただいておりますが、惜しむらくは、こういう稀有の機会に影響を受けるべき、是非受けてほしい若いスカウトの姿が少ないのが、全く持って残念です。私のような者が聴くよりも、自団の VS・RS などにも呼び掛けてはみるのですが、今一つ乗って来てもらえず、力不足を痛感します。

団・地区・県の財産とも言うべきユースの大半が、指導者の入門段階にあり、折角 BS で培ってきたスカウティング技能を自らのプロジェクトに役立てず、専ら原隊への奉仕に勤しんでくれております。地区や県のユース委員は何とか集まりをよくしたいと日々願っておりますので、各団の RA・VSL 各位には、そういう交流活動の情報を得た暁には、何とか時間を空けてあげていただいて、彼（女）らの研鑽の糸口としていただけますよう、是非とも宜しくお願い申し上げます。

支援者 原田 知典（宍粟第 1 団 BS 隊長／県副コミッショナー）

1. 海外派遣報告会

- ・越智さんは姉妹で海外派遣をされており、妹は選考から落とされたという話をされておりました。つまり、国際派遣されるためには、どのレベルのプロジェクトを企画計画しなければいけないか、面接でどのようなことを聞かれるかなど良くご存知なので、そのような人となつなかりを持てたという点が良いと思います。
 - ・報告の中で、第一に自己鍛錬、そして他へのつとめという話をされておりました。これは自己鍛錬と奉仕を繰り返し行なってきた人でないと、なかなかそのような考えにたどり着きません。20歳にしてその考えを持つに至るのはすごいことだと思います。（身近に良い指導者がいたのかもしれませんが）規定集にはローバースカウト活動の目標の一つとして「高度の野外活動により、心身を鍛錬しスカウト技能を磨き奉仕能力を向上させる」と記載されています。ユースフォーラム採択文の中にローバー担当コミッショナーをと書かれておりましたが、自己鍛錬と奉仕を本当に理解しているローバー担当コミッショナーは本当に必要かもしれませんね。
- これからのユース、ローバーには実体験もって、ちかいとおきての実践を語れるようになって貰いたいと思います。

2. ユースフォーラム

屋外で行われるにあたって今回は少人数でしたが、何十人集まったと仮定した場合、準備期間、準備物、スタッフに問題なかったか等シミュレーションをしておく、今後に生かします。

資料6 策定後の流れ (いずれも県ユース委員会の議事録より抜粋)

1. 7/21 の県ユース委員会において

採択文をもとに、各委員が【ローバーリングの中長期的指針】について次回(8/18)のユース委員会までに考えてくることとなった。

2. 8/18 の県ユース委員会において

県ユース委員会として【ローバーリングの中長期的指針】について考えてくることとなった。今回の委員会までは安達・白川の2名が考えてきたので、それについて以下に示す。

- ・地区ユースでローバー活動について見直す勉強会のようなことをしたい。
- ・自分自身も含め、ユースとローバーの認識などあいまいなところもある。
- ・ローバーリングの分類は無限大だが、多くのローバーが自発的・受動的問わず【指導者型】にとどまってしまう。
- ・各地区で勉強会の計画をし、県ユース委員会をその進捗状況及び実施結果の報告や情報交換の場とする。
- ・県ユースでユースとローバーの違いに関する勉強会を開くための補助(自分自身も勉強できる機会を設ける or 県ユース主催でまずは勉強会を開く)をしてほしい。
- ・3年をめぐりに各地区で、信頼できるユース委員会担当(もしくは、RS担当)コミッショナーを専任できないか。
- ・5年をめぐりに、県連で【ユースとローバーの違い】についてガイドラインを出せないか。
- ・5年をめぐりに、指導者型にとどまらないRSの数を現在の倍に増やせないか。

コミッショナークルーより…

- ・ユース年代には、地区振興大会の司会など、後輩や多くの加盟員に姿を見てもらえるような『光のあたる場所での活動』をしてほしい。
- ・ユース委員会は、若手からの『参画』と『提言』を目的として設立された。現在のところ、理事会や他の各常設委員会に参席することにより、ユース委員会に報告内容を持って帰って議論したり、県合同野営大会のセレモニーの振興を担当するなど、ユースによる『参画』という点では概ねうまくいっている。
- ・これからはその先の、各常設委員会や県連・日連・ひいてはスカウト運動全体への、ユース委員会で議論した内容を以ってまとめた意見の提出、すなわち『提言』が求められる。

3. 全国ユースフォーラムの参加について

ひょうごユースフォーラムで参加者選出ができず、大学の授業や応募可能年齢制限などの都合もあり、8月18日時点で県内からの応募者がなかったため、申し出および協議の結果、ひとまず白川副委員長がユース委員会からはエントリーすることとなった(実際に行けるかどうかは隊長・団委員長・県連・日連の承認が必要)。今後、ひょうごユースフォーラムの結果などをも含め、県下のユース年代から全国にむけての意見を集約する。

ただし、他に県内から参加者の申し出があった場合の受け入れをストップするというわけではない。

→最終的に、実行委員長の白川一人のみが参加することとなった。

資料7 当日までのスケジュール(2012年11月～)

日程	内容	備考
11/25(日)	県ユース委員会にて6月30日に第2回ひょうごユースフォーラムを開催することを提案	
1/27(日)	企画調整会議にて年次計画案について審議	
2/10(日)	理事会にて年次計画案を提出	年次計画案提出
3/3(日)	県ユース委員会にて年次計画案の練り直し	前日からの宿泊で行うことが決定
3/10(日)	理事会にて年次計画(確定版)提出	
4/14(日)	県ユース委員会にて企画書の提出・練り直し	
4/21(日)	県連理事会にて企画書の提出	
5/4(土)	洞川教育キャンプ場にて神戸地区指導者委員会と打ち合わせ	同日程で神戸地区のスキルトレーニングが開催されるため
5/12(日)	神戸市青少年会館にて洞川教育キャンプ場の予約	5/19に再調整(要継続調整)
	県連年次総会にて申込書・案内の配布	
5/19(日)	県ユース委員会にて計画書の詰め	
5/20(月) ～ 6/2(日)	過去の海外派遣参加者に基調講演を依頼。 なお、交通費は全額支給であることと、当日海外派遣報告会が行われる時間帯にいられることを条件とした。	藤井信宏氏(伊丹 12/ウガンダ 2011)・國府田華子氏(尼崎 3/CJK2012)・松浦慎之介氏(西宮 10/バングラ 2010)・越智萌子氏(さいたま 1/富士特別派遣 2011)に順に依頼。
6/9(日)	下見・計画書の完成	下見のみ完了
	荒西国際委員長へ支援の依頼 (具体的内容…国際委員会への参加者集め・越智さんの交通費および送迎)	国際委員会のWTW関連費用で交通費を拠出していただけることとなった
6/12(水) ～ 6/13(木)	海外派遣報告会・ひょうごユースフォーラムの広報用チラシの作成	
	森地県連コミッショナーへ支援の依頼 (具体的内容…各地区コミッショナーへの連絡・開会式でのご挨拶・オリエンテーション内での基調講演)	
6/14(金)	事務局へのチラシの送付	各地区委員長(→団委員長)へ
6/21(金)	締め切りを延長したチラシを県連HPに掲載	